

第2回 姫川有識者会議 議事要旨

日 時：平成21年7月29日

場 所：糸魚川市役所

1. 概 要

姫川水系河川整備基本方針の決定を受け、姫川水系河川整備計画を策定していくため、河川法に基づき学識経験者から意見を頂くため、第三者委員会（姫川有識者会議）を発足させ、姫川の現状と課題を踏まえ、姫川に造詣の深い学識者等から姫川の川づくりについて意見を頂き、姫川水系河川整備計画をとりまとめる

2. 主な議論の内容

（1）前回会議における確認事項【座長の職務代行者について】

座長の職務代行者として、立命館大学理工学部教授 里深委員を指名することについて了承された。

（2）資料1【姫川と流域の概要の補足について】

座長

資料－1の11ページにおいて、正常流量は山本地点で $2\text{ m}^3/\text{s}$ であるが、昨年の最小流量はどの程度なのか。

事務局

最新の確定値データである平成18年データの渇水流量は $1.4\text{ m}^3/\text{s}$ であった。

座長

流量が $2\text{ m}^3/\text{s}$ に届いていない時はどうするのか。

事務局

基本方針で概ね $2\text{ m}^3/\text{s}$ を確保すると定められている。河道内における流量の伏没もあり、生物への影響等も踏まえ、精査、検証していきたいと考えている。また、関係する利水者とも調整していくことも考えていきたい。

委員

資料－1の6ページにおいて、「フクド」が記載されているが、「レッドデータブックにいがた」には記載はなかった。新潟県内で「フクド」を確認したのであれば貴重であると思う。

事務局

過去の水辺の国勢調査で確認したものとして整理しているが、過去の調査結果を再度確認する。

委員

資料－１の11ページについて、渇水期に $2\text{ m}^3/\text{s}$ 維持するということであるが、水深はみお筋でどの程度見込んでいるのか。

事務局

水深は30cmを見込んでいる。

委員

9月以降、サケの遡上の時期は大丈夫なのか、また産卵場へたどり着けるということか。

事務局

秋の農業取水が無い時であれば、大丈夫であろうと考えている。

委員

減水区間の問題については、発電所などの利水者とよく協議をしてもらいたい。

座長

サケはどこまで遡上するのか。

事務局

取水堰の無い直轄管理区間内11kmは遡上できると思う。昨年は、翡翠橋でサケの遡上を確認している。

（３）【姫川現地視察について】

委員

久しぶりに上流を視察し、平成7年洪水の被災後、随分と整備されていると感じた。

座長

根知川の合流部を視察したが、流量は山本地点だけで計測しているのか。根知川や大所川などの大きな支川の出口では流量を計測していないのか。

事務局

県管理区間では流量の計測はしていないが、水位については、大正橋付近の「大前」という地点で計測している。また、根知川では水位流量の計測はしていない。

姫川本川においては、山本地点で水位流量を、須沢地点、小滝川合流点上流の姫川第七発電所取水堰地点では水位を計測している。

（４）資料２【姫川の現状と課題】

座長

資料－２の14ページにおいて、姫川の堤防整備状況は63%程度となっているが、どの程度で整備が終了するのか。

事務局

用地取得が順調に進み、予算が今年度と同程度の見込みとした場合、30年程度と思う。

座長

「越水なき破堤」が資料の中に記載されているが、その機構メカニズムを解明するのであれば、実際に現象が起きた上刈地先で検討するべきではないか。

事務局

そのように検討していきたい。

座長

資料－2の17ページにおいて、滞筋や河床の変化にもいろいろな現象があり、これらの現象は出水のスケールにより話が異なってくることから、説明や認識においては混同しないよう注意しなければならない。

事務局

出水の大小により、水当たり箇所やその箇所の根入れの深さについて、巡視や横断測量によりデータを把握していく必要があると考えている。

座長

出水があった場合は、ヘリコプターで写真撮影し、水当たりの状況を確認するのが良いと思う。

委員

資料－2の14ページにおいて、堤防整備率が63%という状況で、用地取得に問題がある場所が、事業が進まず危険度が高いのではないか。

事務局

用地取得にあたっては、用地の確定作業において、地権者などとの立会いが必要となるが、相続整理がなされていないこともあり、そのような場合、用地の調査、相続調査等の必要があり、かなりの時間を要する。

委員

資料－2の24ページにおいて、青海海岸に上流からの土砂が到達していると判断して良いか。

事務局

確定的ではないが、既存の資料等から青海側の海岸についていると思われる。

委員

資料－2の15ページにおいて、破堤した上刈や大野では根入れを深く入れているが、そのような施工は災害復旧工事でしか対応していないということか。今後、堤防の改修計画を進めていく中では、根入れは一般的な方法で施工していくということか。

事務局

堤防の築堤計画は、下流からや危険度の高いところから整備を進めているところである。根入れの浅

いところは、順次、根入れを深く施工している。また、平成7年の出水を受け、護岸の災害復旧では根固めブロックの重量を6tから8tへ変更している。

座長

堤防の前面に60cm程度の巨石を置くのは、先程のブロック重量8tへの対応と矛盾するのではないか。

事務局

巨石を置く目的は、中小の洪水時に堤防付近へ流水を近づけさせないこと、あるいは流速を抑えることを考えている。

委員

資料－2の23ページにおいて、総合土砂として、土砂を管理するのであれば、ある程度の河床変動を許容する区間が必要ではないのか。また、長期的には、どの程度に河床変動が収まっていくのか、上流から下流までの各領域でどのような管理を考えているのか。

事務局

現状では、河床の状況を把握するモニタリングをしっかりと実施していくことが重要と考えている。また、直轄管理区間における下流、中流、上流といった区間別の河床管理のあり方についても、考えていきたい。

座長

資料－2の22ページにおいて、平成7年出水を受けての植生の回復状況を示しているが、この意図は植生の回復が重要ということなのか。

事務局

姫川では出水の都度、川の中が攪乱され、石の川原になることを認識しながら、川づくりをしていくという考えである。

座長

融雪期における流量の最大はどの程度か。

事務局

おおよそ200から300m³/s程度である。

委員

資料－2の14ページにおいて、西中地区のこれまでに築堤された箇所については、構造的に問題はないのか。

事務局

完成堤防として、特に問題はないと考えている。

委員

資料－2の28ページにおいて、河川整備の目標の基本理念（案）について、「越水なき破堤」という表現は姫川の特性を現すものではないと思う。また、「急流荒廃河川」というのもイメージがわかりづ

らい。

事務局

急流荒廃河川については、上流域の脆弱な地域を指して表現したつもりだが、河川の中でのことと混同されるため、見直していきたい。

座長

資料－２の28ページにおいて、３つの理念は、全てを盛り込むのか、それとも１つに絞るのか。

事務局

資料に示したものは、たたき台であり、これを絞るのではなく、委員の皆様が会議の中で議論していただければと考えている。

委員

姫川のキーワードを示し、それらを組み合わせて考えていったほうが良い。暴れ川や破堤は、現実にあった問題である。

委員

糸魚川市では、ジオパークに力を入れている。これと姫川をうまく組み合わせ、だれもが利用できる河川の姿を目指してほしい。

委員

資料－２の26ページにおいて、山本地区で姫川の土砂動態をセンサーにより調査・観測をしており、このような施設で私たちの見えないところで実際に観測が行われている。姫川のジオサイトとすれば、このような施設も見えざる大きな力になる部分だろうと思う。今後、地域に対してPRしていきたい。

姫川の恐ろしさを知っている人は、山の高台に住んでいる。今の太田地区の平坦なところは昔、氾濫原であったと思う。そのような場所にしっかりとした堤防ができているということを、市民にアピールしていけば良いと思う。

委員

観光的な立場でいうと、糸魚川や姫川の地名はロマンチックに聞こえると言われている。「暴れ川」という捉え方も結構だが、もう少しロマンチックな言葉を入れて考えてほしい。

以 上